



# No.51

発行所 〒146-0091  
東京都大田区鵜の木2-39-1  
東京中学校・東京高等学校同窓会  
TEL03(3750)2635  
発行人 柴田夏男  
題字 竹沢四郎(昭16年卒)

## 創立150周年に向けて

会長 昭和52年卒 柴田夏男



同窓会会員の皆様及び東京高等学校教職員の皆様には、日頃より同窓会活動にご理解とご支援を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

2015年に同窓会長に就任して、4年が経過しました。この4年間、同窓生の皆様、特に役員の皆様のお力をお借りしまして、同窓会を運営し前進させることが出来ました。改めまして御礼申し上げます。

2019年4月20日(土)に開催されました幹事協議委員会、及び同年6月15日(土)に開催されました同窓会総会に於きまして会長に再選されましたので、皆様にご報告をさせていただきます。

さて、本校は2022年に創立150周年を迎えます。明治5年(1872年)に創立者の上野清先生が上野塾を開かれ、東京数理学校、東京数学院、東京中学校と名称が移り変わりましたが、その時代に沿った変革をし、先生方の努力があって、現在まで148年も続けてこられたのだと思っております。

150周年は特に大きな事業は予定されておきませんが、同窓会として引き続きお力添えをしていきたい所存です。

現在、学校にとって大きな問題は少子化です。2018年4月の入学者は40年ぶりに定員割れをしたと聞いております。他の私立高校も毎年のように新入生募集には苦勞していると聞き及んでおります。定員割れの話の伺い、本校も例外では無いと改めて思うようになりました。

2020年4月に入学する新入生は150周年の時に3年生となります。来年(2021年)、再来年

(2022年)入学のお子さんも150周年の節目を体験できます。

100周年はとても大きな節目でおめでたいことです。しかし、150周年は100周年以上に貴重な歴史となることは間違いありません。今年の同窓会報から、「後輩募集」の広告を掲載させていただきました。

長い歴史がある本校の卒業生は多くの方がおいでになります。そして、嬉しいことに実は本校卒業生のご子弟が毎年何人かは入学をされていらっしゃいます。

実を申しますと、現在の同窓会の会長、副会長は自分の子供を本校に入学させ卒業させております。それは、自分たちの卒業した学校が良い学校であり、自分たちが学んできた恩師も健在でおられるという、私立の学校の良さが有るからだと思っております。

是非、同窓会も同窓生のご子弟が後輩として来てくれることを応援したいと思っております。是非、恩師の先生方、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

勉学、部活動を頑張りたい後輩達を待っております！

最後になりましたが、同窓生の皆様、教職員の皆様には引き続き同窓会へのご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

## 令和となって

理事長 上野 雅子



平成時代が三十一年四月三十日に終了。五月一日から新天皇の御代令和元年が始まりました。元号が変わったからといって日常生活が変わるわけでもなく、今迄通りに月日は流れ、八ヶ月の令和元年もそろそろ終わろうとしています。この年も又、台風による大雨で長野、千葉、神奈川など多くの地域で被害がおこりました。これも気候異常が原因と思われませんが、過去には考えられない程の雨量で河川の近くの家々は、二階迄水が流れ込んできたといひます。地震大国である日本は、今迄にも大きな天災で多くの人命が犠牲となったり、家々を流されたり等大損害を被りました。地球規模の気候異常は、小さな日本にとっては大打撃だと思ひます。自然との共存は非常に難しい問題ですが、少しでも地球環境に悪い事は、一人一人の意識改革で止める方向にいけたらと思ひます。

さて、東京高校は、皆さんも御承知のように、ラグビー部が三年ぶりに花園出場を決めました。年末から年始にかけての試合には、多くの方々が応援に来て下さる事と思ひます。ワールドカップで沸いたラグビー熱の後

の勝利は又格別だった事と思ひます。この勝利は他の事でも感動を受ける話があります。実は台風一九号の影響で多摩川河川敷の練習場がドロに埋まり、練習が出来ない状態となり途方にくれていた時に、東京農大第一高校、慶応高校がグラウンドを提供して下さい、早実との決勝戦に備え練習に励む事が出来たのです。この話は、新聞やテレビのニュースでも報道されましたので御覧になった方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。ラグビーは紳士のスポーツといわれるように、きちんとしたマナーが求められます。それ故に指導するリーダーは、自分磨きを怠らず尊敬される人間となるよう常に心がけなければならない大切な使命を負っています。

令和となって一年が過ぎ、新天皇、新皇后の時代となってどう変わっていくのか、世界情勢も又、気になる昨今ですが、「令」は、規則、いましめ、「和」は、穏やか、和やか、皆が規則を守り和やかな世の中であってほしいと、つくづく感じる今日この頃です。



活躍する部活動



本校多摩川グラウンド

## 充実感

学校長 伊藤 詔一



最近私たちは、自分でゆっくり物事を考えることが少なくなってきたように思います。ゆっくり物事を考えるためには、ゆったりと一人で過ごす時間が必要なのですが、世の中このようにすべてが忙しく便利になってきますと、なにかのんびりしていると非効率的で、無駄な時間を過ごしているように思えてきます。

私たちは忙しくしていることにかえて充実感を感じているのかもしれませんが、最近若い人の間では、手帳の予定欄が空白だと不安を感じるといういます。何かに追われているような状況がむしろ安心感を呼ぶのでしょうか。

現代人は孤独を非常に怖がっているからだと思います。「孤独は山になく、町にある。一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の『間』にあるのである」と、哲学者の三木清さんは言っています。

都市化された生活では孤独感が癒されそうもありません。ともあれ一人で、ゆっくり考える時間がとりにくい生活環境だともいえます。

しかし孤独を恐れてはいけません。三木清さんは「すべての人間の悪は、孤独であることができないところから生ずる」とも言っていますから。

確かに、忙しい日常生活を送るためには、無駄な時間をとるわけにはいきませんが、人生にとって本当に無駄な時間なのかどうかということは、別問題だと思います。

「パイプのけむり」というエッセイ集を書いた、2001年に亡くなった音楽家の團伊玖磨さんは、ある時ヤップ島の石貨について興味を持ちました。ヤップ島から日本に送られた石貨を探すため日比谷公園などでいろいろ調べることになりました。

そのときのエッセイの中で、「こういう、自分にとって何の役にも立たない事物に興味を持って、その事を調べる時、僕は至福の時を持つ」と書いています。

世間からみれば、ヤップ島から送られた石貨などについて調べるのは無駄な時間かもしれませんが、團伊玖磨さんにとっては至福の時間なのです。何か、分かるような気がします。

團伊玖磨さんの心の奥には、「自分に役に立つことを知りたがったり調べたりするのは俗物のすることである」という考えがあります。どうしても目の前のことに惑わされて過ごす我々にはうらやましい境地です。

最後になりますが、同窓会の皆様には、各部活動の大会出場に際するお祝や、卒業生への記念品等、母校の教育振興と在校生の激励のために、平素から特段のご後援を賜っておりますこと、また、今年のいちょう祭にもご支援とご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

今後ご支援、よろしく願いいたします。

## 校歴銘板に伊藤学校長を追記

2019年8月28日、本校本館1階ホールに掲示されている「校歴銘板」に伊藤学校長のお名前を追加させていただきました。

当銘板は創立120周年記念に同窓会より寄贈させていただいております。



## 学校近況報告

副学校長 鈴木 徹



平成31年度は、292名の新入生を迎え、全校生徒1,013名(男子512名<50.5%>・女子501名<49.5%>)でスタートいたしました。以下に、学校の近況をご報告いたします。

【1学期】中間試験後、5月31日に体育祭が行われました。参観する保護者は年を追うごとに増え、今年は親師会の協力を得てテントも増設いたしました。保護者の皆様には、河川敷グラウンドで躍動する普段とは違う我が子の姿をご覧いただけたものと思います。

5月末からは春期教育実習が始まり卒業生14名が、また秋期にも10名がそれぞれ3週間の実習を行いました。

【2学期】例年通り校外授業からスタートしました。1年生は長野県白馬村で2泊3日の農業体験、2年生はカナダ・沖縄・北海道3方面へ分かれての修学旅行、3年生は野外活動(体育コースは富士登山)を行いました。なお沖縄修学旅行では台風13号の影響を受けましたが、大きな混乱もなく無事に帰京することができました。また、10月末の首里城の火災には大変心を痛めております。一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

今年度の「いちよう祭」は9月28・29日に開催されました。昨年は台風の影響で短縮を余儀なくされましたが、今年は天候にも恵まれ、入場者も約2,400人と盛況でした。また同窓会の皆様には「制服の変遷」等、様々な企画で盛り上げていただき深く感謝いたしております。

【3学期】最後になりますが、本校は今年で創立から147年を迎えました。明治・大正・昭和・平成、そして5月からは令和と元号も変わりましたが、草創の精神を忘れずに、今後とも東京高校の新たな歴史を刻んでいきたいと考えています。そして3月5日には第128回卒業式が挙行されます。昨年までに学窓を巣立った卒業生総数は30,962名、また新たにこれに加えて373名の同窓生が誕生いたします。来たる2022年には創立150周年という大きな節目を迎え、学校も施設の整備・資料の整理など様々な取り組みをしているところです。

同窓会の皆様には日頃から多大なご協力を頂いておりますが、向後益々のご支援を宜しくお願い申し上げます。

## 2019年度東京高等学校 大学・短大合格者数(AO・推薦合格者)

大学名	合格者数
青山学院大学	2
朝日大学	1
桜美林大学	2
大妻女子大学	3
学習院大学	1
神奈川大学	11
鎌倉女子大学	3
関東学院大学	5
恵泉学園大学	1
工学院大学	2
國學院大学	3
国土館大学	10
駒澤大学	3
駒沢女子大学	1
相模女子大学	2
産業能率大学	3
実践女子大学	5
城西大学	1
昭和音楽大学	1
昭和女子大学	3
白百合女子大学	2
成蹊大学	2
成城大学	2
聖心女子大学	3
清泉女子大学	1
聖徳大学	2
専修大学	5
大正大学	1
大東文化大学	1
高千穂大学	1
拓殖大学	1
多摩大学	3
玉川大学	3
多摩美術大学	1
中央大学	3
帝京大学	4
帝京平成大学	6
東海大学	8
東京医療保健大学	2
東京家政大学	2
東京経済大学	4
東京工科大学	1
東京国際大学	1
東京女子体育大学	1
東京成徳大学	1

大学名	合格者数
東京都市大学	10
東京農業大学	5
東京理科大学	1
東邦大学	1
東洋英和女学院大学	6
東洋学園大学	1
東洋大学	4
獨協大学	1
日本大学	9
日本女子体育大学	2
日本体育大学	6
白鷗大学	1
フェリス学院大学	1
文化学園大学	1
法政大学	1
武蔵大学	2
武蔵野大学	1
明海大学	3
明治学院大学	8
目白大学	1
山梨学院大学	2
横浜創英大学	1
立教大学	1
立正大学	4
流通経済大学	1
計	198

短期大学名	合格者数
洗足こども短期大学	1
帝京短期大学	1
目白短期大学	1
実践女子大学短期大学部	1
川崎市立看護短期大学	1
相模女子大学短期大学部	1
淑徳大学短期大学部	1
計	7

2020年1月現在

1月以降の合格者につきましては、学校ホームページでご覧いただけます。

## 部活動報告

<b>男子陸上競技部</b>
東京都高校総体総合優勝(19年連続35回目)・関東大会総合優勝(6年連続12回目)・東京都新人大会総合優勝(36年連続37回目)・全国高校総体(沖縄インターハイ)走高跳6位、砲丸投げ3位、円盤投げ4位、総合7位、フィールド優勝(初)・国民体育大会(茨城)円盤投げ7位、走高跳3位・U18日本選手権大会砲丸投げ7位・U20日本選手権大会走高跳5位、第8位
<b>女子陸上競技部</b>
東京都高校総体総合優勝(10年連続27回目)・関東大会総合優勝(5年連続9回目)・東京都新人大会総合優勝(7年連続25回目)・全国高校総体(沖縄インターハイ)総合6位、砲丸投げ5位、100m第5位、400m第3位、100mH第4位・国民体育大会(茨城)400m優勝、100mH第4位、砲丸投げ第6位、4x100mリレー第8位・U18日本選手権大会400m第2位、300m第5位、100mH第8位、走高跳第4位、第7位、砲丸投げ第5位、4x100mリレー第8位・U20日本選手権大会400m第2位、200m第4位、100mH第2位・東京都高校駅伝第4位、関東高校駅伝第10位(過去最高位)
<b>チアリーディング部</b>
東京都総体自由演技3層部門準優勝、2層部門第5位、第21回関東チアリーディング選手権大会、Division1第3位、スモールグループ第5位・第13回アジアインターナショナルオープンチャンピオンシップ Division1第5位、スモールグループ第4位・JAPAN CUP2019チアリーディング日本選手権大会 Division1第4位、Division2第13位、スモールグループ第9位・第10回チアリーディング世界選手権大会スモールグループ準優勝
<b>ラグビーフットボール部</b>
第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会ベスト16・第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会東京都予選第1地区優勝・第67回関東高等学校ラグビーフットボール大会Eブロック優勝・第6回7人制全国大会東京都予選優勝東京都春季大会ベスト4
<b>女子硬式テニス部</b>
東京都高等学校テニス選手権大会団体戦準優勝、シングルス第3位、第9位、ダブルス第3位、第5位入賞・第72回関東高等学校テニス大会団体2回戦進出・第109回全国高校総体体育大会(インターハイ)団体戦出場東京都私学大会団体第3位・第20回新潟高体連ヨネックス杯第3位・第10回東京都私学リーグTOPリーグ優勝・東京都新人テニス選手権シングルス第5位、ダブルス第3位・東京都選抜テニス大会優勝
<b>サッカー部</b>
東京都インターハイ地区予選ブロック決勝進出・高校サッカー選手権東京都大会ベスト16東京都リーグT3第9位、地区II部リーグ2位(1部昇格)、地区III部リーグ3位
<b>硬式野球部</b>
春季東京都高等学校野球大会第11ブロック優勝(本大会出場)・第101回全国高等学校野球選手権大会東京都大会ベスト32
<b>女子バレーボール部</b>
春季大会兼関東大会予選ベスト8(第7位)・関東高等学校バレーボール大会出場、東京都ジュニアビーチバレー大会第3位インターハイ予選ベスト16(第9位)・東京都私立中学高等学校バレーボール大会ベスト16・関東ジュニアビーチバレー大会第3位全日本高等学校バレーボール選手権大会予選ベスト16・新人選手権大会ベスト16(第9位)・関東私立高等学校バレーボール選手権大会第5位
<b>男子バスケットボール部</b>
私学7支部大会第4位
<b>女子バスケットボール部</b>
関東大会東京都予選ベスト64・全国大会東京都予選ベスト64・私学7支部大会第3位
<b>女子ソフトテニス部</b>
城南大会個人戦ベスト16(3ペア)、インドア予選優勝
<b>男子ソフトテニス部</b>
私学新人個人戦ベスト32
<b>卓球部</b>
東京私立高校卓球選手権大会男子4回戦進出、春季大会シングルス女子ベスト4進出・国民体育大会東京都予選女子4回戦進出
<b>女子バドミントン部</b>
第44回北区春季バドミントン大会女子ダブルス3部第3位、4部準優勝、第3位
<b>吹奏楽部</b>
2019 TAMAアンサンブルフェスタ サクソフォン四重奏金賞
<b>書道部</b>
第35回成田山全国競書大会入賞(特選、秀作)・第17回和洋女子大学競書大会審査員奨励賞・特選入賞第32回東京都高等学校文化連盟書道展会長奨励賞、第24回全日本高校、大学生書道展優秀賞、準優秀賞、第81回謙慎書道会展(蒙状・入選)
<b>軽音楽部</b>
第12回東京都高等学校対抗バンドフェスティバル、2年生バンド「神も仏もない世界」特別賞受賞・第12回東京都高等学校軽音楽コンテスト、3年生バンド「ユラナス」決勝進出(優秀賞受賞)

同窓生の皆様、  
後輩募集中です!

母校、東京高等学校は2022年に創立150周年を迎えます。母校では皆様の後輩(新入生)を募集しています。勉学と部活動を3年間頑張れる後輩をご紹介します。

\* 下記の生徒募集要項は次年度の予定(未定版)です。

詳細につきましては5月以降、学校にお問い合わせをお願いします。

## 東京高等学校 2021 年度生徒募集要項

区分	推薦入試	
	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ
試験日	1月22日(金)	
開門・集合	7:40開門・8:30集合	
募集人員	120名	30名
試験科目	作文・面接	適性検査(国語・数学・英語)・面接
出願方法	Web出願 (パソコン、スマートフォン、タブレット端末から可能)	

区分	一般入試		
	第一回	第二回	第三回
試験日	2月10日(水)	2月13日(土)	2月17日(水)
開門・集合	7:40開門・8:30集合	7:40開門・8:30集合	9:00開門・10:00集合
募集人員	125名	20名	5名
試験科目	国語・英語又は数学・英語面接	国語・数学・英語・理科・社会から1科目面接	国語・数学・英語から1科目面接
出願方法	Web出願 (パソコン、スマートフォン、タブレット端末から可能)		



## 平成31年度定年退職者

### みなさんに 感謝です

上口 弘



32年間、東京高等学校に勤務をさせていただきありがとうございました。

平成31年1月には、一般財団法人東京私立中学高等学校協会から平成30年度優秀教員として表彰されました。表彰式では、近藤会長から「学校を支えているのは先生方に他ならない。私立学校の独自性・自主性、建学の精神を守り、自由活発でいい教育を続けていくためにはこれからも先生方の力が必要」との励ましの言葉がありました。

32年間のうち18年の間、進路指導部長として仕事をさせていただきました。一番の思い出は、長い間働きかけてきたMARCHの大学から指定校をいただいたことでした。「これで生徒が喜ぶ！」と、一緒にお手伝いをしてくれた教員と大喜びしたものでした。本校の進学実績向上のために長期に渡りご協力をいただきました元教諭の石田厚先生と東谷篤子先生には大変感謝しております。

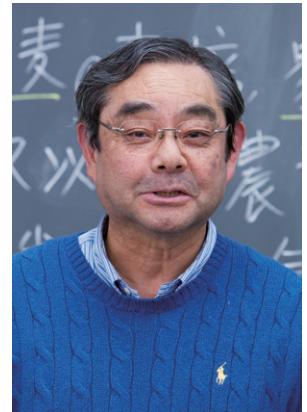
部活動におきましても、26年間、女子硬式テニス部を応援していただきありがとうございました。一昨年の全国選抜高校テニス大会出場や昨年のインターハイ出場、6回の関東大会出場、6回の全国私学大会出場、東京都私学大会団体優勝4連覇など、全国でも強豪校として東京高校の名前が知れ渡るようになりました。これも教職員の皆様を始め、同窓会の方々、親師会の方々、甲子会の方々からの後押しがあったからこそできたことであり、感謝の念に堪えません。

同窓会のお手伝いとしまして、2001年から18年間、学校ホームページの制作と運営をする傍ら、同窓会ホームページの制作運営も一緒にやらせていただきました。少しはお役に立てたかと思っております。

私くらいの年齢になりますと、過去を振り返りがちですが、常に私は現在進行形でありたいと考えております。ポジティブな気持ちを捨てたくないと思っております。今後は、テニス部の面倒を見たり、夫婦で海外旅行をし

### 四十年間の 思い出

桐生 長正



地理学の大学院を終了して、1979年、都内屈指の伝統ある本校に奉職しました。初日にお会いしたのが江戸幕府の老中「田沼意次」から13代で、大学の地理学科の先輩でもある田沼道雄先生でした。先生と一緒に土手に立つと、霊峰の富士山、悠然と流れる多摩川、鶉の木の桜並木、丸子橋の横を通る東海道新幹線が見られました。東京高校の周辺の環境の素晴らしさを先生自ら語ってください、話を聞きながら私は「この学校で生きる」ことを決めました。初年度から担任を持って、以来39回の担任で1,755名の生徒をお世話しました。

授業では地理、政経、倫理、現社を持ち、生徒と共に成長できました。初年度は田園調布の巡検を実施し、大きな成果を上げました。

部活動では硬式野球部と卓球部を担当しました。野球部では23年間「一球入魂・野球部を通じての人間づくり」を目標に厳しく選手を鍛え上げました。1992年の夏の東東京大会では準々決勝(ベスト8)まで進出、1996年の春の東京都大会3回戦、八王子市民球場で早稲田実業高校に勝った時は天にも昇る気持ちになりました。卓球部では2017年、女子の関東大会予選団体戦でBクラス、東京都3位になりました。チームワークの勝利です。

私は生徒たちに「人間愛、中庸の精神、文武両道、何事にも気持ちの大切さ」を強調しました。

私は故郷「新潟県南魚沼市」に帰りますが、ぜひ遊びに来てください。40年間、多くの人にお世話になり、本当にありがとうございました。東京高校の発展と皆様のご多幸をお祈りいたします。

たり、トレーニングジムに通ったり、のんびりとした生活をしたいと思います。

長い間、本当にありがとうございました。

## いちよう祭

昭和58年卒 松浦 みき

創立147周年を迎えた東京高校。今、150周年へ向け同窓会としても東北高校、東京実業高校との3校の絆を強めるため、各校の歩みを紹介すると共に、それぞれの校章の由来などを展示し、兄弟校の繋がりを広くPRする事となりました。特に東北高校から贈呈された、羽生結弦さんと荒川静香さんのパネルを展示させて頂いたことで、より多くの関心を集められたのではと感謝しております。

今年度のいちよう祭は、同窓会スタッフも超多忙な中で準備が始まり、いつもより駆け足で4日間を過ごした様な感じがしました。

その他の展示内容としましては『活躍中の部活動・第4弾』として、野球部を特集しました。同窓生でもある松下先生の全面協力の下、創部88年を迎えた活動の歴史や戦績、賞状、トロフィー、ユニフォームの他、大会の映像を流し来場者にも満足していただけたのではと思います。

同窓会独自のコーナーでは、制服に焦点を当て、制服の変遷を写真と実物を展示し紹介。また、学校から歴代の入学案内のパンフレットをお借りし、自由に閲覧できるよう設置した事で充実したコーナーになりました。そうそう、当時のパンフレットにモデルとして載っていた生徒が保護者として母校に返り咲き、親師会で活躍されていました。こういうアットホーム的な所も、我が校の良さなのだと感じています。

恒例のマグカップですが、今回は例年より需要が多く在庫もはぼなくなりました。ご協力ありがとうございました。

11月10日、東京実業高校の文化祭に初めてお邪魔させていただきました。我が校とはまた一味違ったテイストで、楽しいひと時を過ごしてきました。

来年度から制服が変わるという事で、偶然にも制服展示コーナーがあり試着もできるとか？ちょっと東実さんの方が華やかだった気がしました。(笑)

昨年からの「思い」であった『兄弟校との交流』が徐々に実現されつつあり、大きな一歩を踏み出した様に思われます。

創立150周年へ向け、同窓会も更に邁進していくと共に、各部活動の活躍を切に願っております。弥栄。



### いちよう祭実行委員会

委員長 松浦 みき(副会長)

委員 浦口 欣久(常任幹事)、小野 聡(常任幹事)  
田口 美紅(常任幹事)、渡邊 崇広(常任幹事)  
金子 実咲(常任幹事)、岩井 峻真(協議員)  
神戸 小次郎(協議員)、鈴木 隼虎(協議員)  
馬庭 日向子(協議員)、有働 陽也(協議員)

## 昔の話

昭和27年卒 中村 昇



一九四五年四月。中学へ入学願書を出したものは、全員無試験で合格という非常時の特別措置、苦勞せず旧制五年制の東京中学合格。入学してすぐ登校すると、五年生の当番が正門に立っていて、ゲートルの巻き方を点検していた。正門右手の奉安殿に最敬礼するのは朝朝のことであった。

本館地下の剣道部へ、入部手続き。二年、三年には有段者になるはずであった。八月の敗戦後はすぐ、武道、剣劇、チャンバラはご法度、規制・だめというので、階段教室の隣に部室のある化学班に入った。青酸カリがなくなったと言って先輩たちが一時騒ぎになった。見つからなかったようである。

英語の授業は、日比野先生。「これはペン」ではなく、「バナナは黄色」という楽しいものであった。(進駐軍が点検にきたときは日比野先生が対応されていた。)

四月に入って間もなく、朝八時すぎに登校すると、一〇時には空襲警報発令、下校せいというので、鶉の木の前に来ると、すでに下丸子の方から小型の艦載機が、目蒲線の線路を機銃掃射しながら飛んでくる。身軽だから防火用水の陰に隠れるくらいのはできた。すぐ鶉の木の前山横穴の防空壕に避難する。することがないから弁当を立ち食いする。夕方まで解除後の空腹を抱えていた。四月半ば、学校の隣の三菱重工業が空襲でやられ、奉安殿前の木造二階建ての校舎一棟が焼失した。蒲田区の下丸子、矢口、道塚、御園、原などの町が焼け野原になった。予備役の陸軍中尉の配属将校から、分列行進などの軍事教練を受けた最後の年代である。上級生は夏休み前に、地方へ動員された。敗戦の年末には、教科書に一部墨をぬらされた。(不適當表現であるというわけ、進駐軍の命令だと聞かされた) 四六年には遠足で鎌倉の八幡宮へ行き、北鎌倉まで歩かされた。村山貯水池への遠足はいつだったか。残念なことに集合写真が一枚もない。写真を撮るということが無かった。

グラウンドでは、野球の試合などがあった。二級上の剛腕な岡田投手。一級上の美技の神谷遊撃手などを覚えている。運動会では、化学班としてリレーに参加した。体育館の土間は凸凹で、卓球台が落ち着かなかった。二階の空教室では休み時間に、薄板をネットに

したピンポンが流行っていた。セルロイドの球は破れやすかった。

四七年二月の「英和対照日本国憲法」という冊子が「東京中学校 中村昇」と記名して手元にある。

その年の秋、黄色い表紙の『新しい憲法のはなし』が教科書として配られた。戦争を反省した「前文」の文章に感動したものである。日本国民は恒久の平和を願ひ、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚し、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼し安全と生存を保持しようと決意した、とあった。

戦争をしない、武器を持たない、軍隊を持たないという衝撃的で新鮮な内容であった。軍国主義から民主主義への転換である。新しい時代が来ることを思わせた。

時代は変革期であった。二・一スト、私鉄値上げ。学制が六・三制となった。東京三五区が二三区となり、大森と蒲田が合併して大田区となった。安易な決まり方であった。石川台にあった田園調布電報局在勤中、窓口に和服(戦時中は消防団の詰襟の制服を着ておられた)の難波専太郎先生が電報を打ちに来られた。東中でお世話になった者だと言ったら、遊びに来いと言われ、後日近くのお宅に伺った。先生は『朝鮮風土記』の著者のある美術の評論家でもあった。当時全電通歌人集団事務局長をしていた小生と短歌の話をし、帰りに美術評論の分厚い『奥村土牛』『松村桂月』二冊をいただいた。一九八二年(昭和五七年)三月一六日都立荏原病院で心不全のため亡くなられたと、のちの新聞で知った。

黒板いっぱい左手で数字をたくさん書かれていた高松紀三郎先生も忘れられない恩師の一人である。

昔の通信省から電気通信省を経て電信電話公社、そしてNTTと四〇年の職場経験がある。すでに八〇代も半ばを過ぎた。足腰の老化、劣化は否めない。警察予備隊、保安隊、自衛隊と憲法の枠が外されそうで心配だ。年号が変わり、時代が移りつつある。残された時間を、遠く母校の繁栄を祈っている昨今である。

軍国の少年いつかたくなな平和主義者となりて老いそむ

(東久留米市在住)



## 谷川学寮の思い出

昭和55年卒 田丸 和玄



私が東京高校に在学していたのは70年代後半で、経済優先による公害や暴走族などの社会問題がクローズアップされる一方、ソニーに代表される電化製品やダットサンの愛称で人気を得た自動車、カワサキ、スズキといったモーターサイクルなどの日本製品が、その品質を世界で高く評価され始めた頃でもありました。物質的には今ほど豊かでも便利でもなかったものの、80年代に向かって上昇して行く勢いがある時代だったと思います。

その様な時代の中で過ごした3年間を振り返ると谷川学寮（群馬県水上町谷川）のことが懐かしく思い出されます。この学寮を知る世代は40代半ば以上になっていることと思います。今は関越道や上越新幹線で日帰り出来る水上町ですが、当時は上越新幹線の新清水トンネルを学寮近くの谷川で掘削中で、上越線で3時間近くかかったことを覚えています。

この学寮は、郊外授業や部活動だけでなく教職員や生徒が使える宿泊施設でもありました。ここでの郊外授業（ホームルーム）は、クラス単位で2泊3日で行われ、1年時は春、2年時は秋に実施されました。その内容は毎年同じ様なもので、初日は谷川沿いの牛首までのハイキング、2日目は上越線で水上駅からループトンネルを通り土合駅へ。あの地下にあるもぐら駅の長い階段（486段）を遠くに地下の明りを見ながら登った後、旧道で谷川岳東側のマチガ沢、一の倉沢出合、幽の沢へのトレッキング。お風呂をもらいに行った谷川温泉金盛館。夜の神社への肝だめしや谷川岳の遭難や怪談話など実に盛り沢山でした。

私が初めてスキーを履いたのが、この学寮でのスキー教室でした。私は平山先生の班で、初日は神社前の畑で基本的な歩行、キックターン、登下降の反復練習。この神社前の畑の斜面には昭和初期にノルディックスキーのジャンプ台があったそうです。2日目よりホワイトバレースキー場でのリフトを使ったレッスンに入り、最終日にはSAJのバッジテストを受けることが出来るとい

うおまけ付きで、私も仲間と5級を受験して全員合格しました。

この学寮でのスキー教室は、3年時には雪不足により妙高赤倉での開催となりました。

卒業までに5回通った谷川学寮は、80年代半ばには閉鎖され、民間に売却、建物はそのままハミングバードというペンションとして営業していましたが、2000年前後にはそれもなく更地になりました。このスキー教室も今はないとのこと。スキーを教えていただいた平山先生、田沼先生も故人となりましたが、先生方から教わったことは今も私の心の中に生きています。

卒業後も日々のトレーニングをしながら、私はスキーを続けています。お風呂をもらいに行った谷川温泉金盛館は、30年来の私の常宿となり、今でも谷川に通い続けています。パウダースノーを求めて各地のゲレンデを巡りつつ水上周辺のゲレンデにはよく行きます。

数年前にホワイトバレーを再訪したところ、2軒のレストハウスや2基のリフト、ローカルな雰囲気は当時のままでした。レストハウスとど松のお女将さんが当時を覚えていて、今でも東京高校OBが来ると話してくれました。

このホワイトバレーの駐車場の脇に新清水トンネルの空気孔兼点検用トンネルが開いていて列車通過のたびに凄い爆音がします。近くに行かれることがありましたら、先のジャンプ台の跡と合わせて、この入口も探してみてください。

改めて東京高校の3年間を振り返ると、その後の人生の起点や核となったことの始まりは全てこの3年間にあったと思います。中でも谷川学寮での経験は得難いものがあり、その思い出は枚挙にいとまがありません。この先の人生の限られた時間で、日々を大切に、あの頃に充実した時間を過して行きたいと思います。



## 第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会報告

ラグビー部 顧問 森 秀胤

今大会はワールドカップ2019日本大会の開催後初となる高校ラグビーの全国大会で、ラグビーへの注目度が高まる中、令和元年12月27日に第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会（3年ぶり13回目の出場）が東大阪市花園ラグビー場（大阪府）で開催された。全国地区予選を勝ち抜き、代表となった51校が集結し開幕した。本校はBシードの為、12月30日の2回戦からの出場となり、初戦は岩手県代表・岩手県立黒沢尻工業高校との対戦。試合は開始2分で、野田光祐（3年）が左隅に飛び込みトライを奪い主導権を握った。その後も3分、5分と連続トライを重ね、前半は22-0で折り返す。後半12分にモールを形成しトライを奪う。その後も4本のトライを奪う。しかし、相手も最後まで諦める事なく2本のトライを奪われてノーサイド（57-12）。

改めて全国大会に出場するチームは自チームにプライドを持ち、決して最後まで諦めない精神的な強さを持っていると事がわかる試合であった。3回戦の相手はここ10年で5度の日本一、2度の準優勝になっている大阪府代表・東海大学付属大阪仰星高校である。決戦の日、令和2年1月1日（元旦）天候にも恵まれ、メインスタジアムでの試合となった。試合開始から相手の連続攻撃を受け、前半6分にトライを奪われる（0-5）、しかし、その後はこの1年間積み上げてきたディフェンス力で相手の猛攻を凌ぎ切る。前半終了間際27分にトライを奪われ（0-12）で前半を折り返した。後半に巻き返しを図るも、相手の堅い守備を突破する事ができず、ミスから相手にトライを許す（0-17）。ロスタイムに入り、勝敗は決まっていたが誰一人と諦める者はいなく、最後まで東京高校のプライドを胸に戦っていました。それが試合終了間際の杉本海斗（3年）のトライ（5-17）へと繋がったと思います。

今年度のチームは東京都新人大会（1月）ベスト8からのスタートであり、春季大会（5月）でベスト4、全国大会東京都予選（11月）で優勝し、全国大会ベスト16まで成長してくれました。10月には台風19号の被害を受けグラウンドが使用出来ない時期もありましたが、学校関係者はじめ、他校の先生方々にも沢山のご協力を頂きました。また、同窓会・親師会・ラグビー部後援会・OB会などの多大なサポートもチームの強化に繋がりました。今年のこの結果はラグビー部のものだけではなく、本校に関わる全ての皆様のお陰で得た結果です。改めてこの場をお借りして御礼申し上げます。最後となりますが、新チームも始動していますが新人大会ではすでに敗戦し、東京都ベスト8からのスタートとなりました。令和2年度は全国大会も第100回を迎える記念大会となります。2年連続14回目の出場を目指し、日々精進して参ります。今後とも変わらぬご支援・ご声援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。





## 日本の伝統文化である書を通じて主体性を養う

書道部 顧問 関谷 秀一

副顧問 吉山 さやか

書道部は書を通じて「自ら考え主体的に考える力」を育てることをテーマにしています。年間の活動内容・練習日を部員全員で話し合って決定しました。

全国レベルの展覧会に挑戦するという、高い目標を設定しました。書道未経験者がほとんどですが、作品制作や書道パフォーマンスを通じて、書の魅力や楽しさを感じて、約2年間の活動の中で少しでも充実感や達成感を味わってほしいと思っています。

書道というと、個人個人が取り組むものだと思われがちですが、全員がある一つの目標に向かって取り組むことで、部全体の士気が上がり、必然的に書への姿勢や書技術の向上へと繋がります。

今年は半紙・半切作品の他に2m40cm×60cmほどの紙に書く大作作品にも挑戦しました。書くまでの準備から書き終えるまで、1枚の作品に2時間もの時間を費やしました。書は一回性の芸術なので、いかに気持ちを持続させて書き上げるか、古典の書法を理解した上で、用筆・用墨など書表現をどうするのか、様々な壁にぶつかりながらもそれぞれが素晴らしい作品を書き上げました。

1人1人の努力が評価され、第24回全日本高校・大学生書道展 優秀賞（大阪市立美術館に展示）・準優秀賞 第61回大東文化大学 全国書道展 書道研究所50周年記念特別賞・推薦賞・特選、第17回和洋女子大学 競書大会 審査員奨励賞・特選など、入賞率約9%という、貴重な賞をいただくことができました。

また、作品制作だけでなく、書を通じて、広く皆様に楽しんでいただけるよう、パフォーマンスにも取り組みました。内容や段取りなども部員で話し合い、全紙1/2のサイズの紙に、様々な書体を用いて「光陰如流水」の5文字と「令和元年書道部」と揮毫しました。書には様々な書体があり、興味をもってもらいたく、そして、この5字熟語に観て下さる方々へのメッセージを込めました。

書というと難しい印象を持たれる方も多いと思いますが、見方は自由であって良いと思います。約2年間の部活動を通じて、振り返ったときに楽しかった、充実していたなという気持ちをもってもらえたらと思っています。書を通じて、自ら考え、主体的に考える力を養うことにより、今後の人生の一助になって欲しいと思います。いちよう祭に書道部OGの方が親子で来て下り、書道部の作品展示やパフォーマンスを観て下さいました。卒業生のお言葉が励みとなり、自信にも繋がったと思います。卒業後も日本の伝統文化である書を誇りに思い、親しむ心を持って、書を魅力あるものとして社会や人に発信する人材になってもらえたら嬉しいです。

書道部の日頃の活動におきまして、学校関係者の皆様にはいつもご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。



## 教育実習を経て感じた母校の魅力

平成28年卒 上村 希実

本年度秋季に国語科の教育実習をさせていただきました。未熟な私を温かく受け入れてくれた生徒や熱心にご指導いただいた先生方には感謝と尊敬の念を抱きました。また実際に一教員として学校に携わってみると、学校は生徒や先生だけの関係で成り立っているのではなく、保護者の方々や地域の方々、また周りで支えてくださる方がいて初めて学校として運営していけるのだと

実感しました。東京高校は非常に多くの方々の支えがあるからこそ、とても温かく活発な雰囲気なのだと感じました。

この東京高校の雰囲気が私は大好きです。道を歩けば丁寧に挨拶をしてくれる人たちがいること、それぞれの目標に向かって一生懸命に努力をする人たちがいること、笑顔と元気にあふれた学校であること。これらは東京高校の伝統であり、誇るべきものだと感じています。卒業してもずっと応援していきたい。魅力いっぱいの母校なのだと感じました。

(青山学院大学教育人間科学部・国語)



## 教育実習を通して学んだこと

平成28年卒 北山 亮介

平成28年度に卒業し、保健体育科の実習生として3週間お世話になりました。

将来の夢は人を助ける仕事がしたい、困っている人に対して真っ先に手を差し伸べることができる。そんな仕事がしたい。と思い、高校生の時に関わる事が多かった保健体育科の教員を目指して進学先を決めました。

実習期間中はラグビー旋風が吹いていた時期で、私の担当したラグビーの授業では生徒がとても意欲的に取り

組む姿勢が見られ、生徒が安全に楽しく学べるような授業づくりができるように取り組みました。実習生で助け合いながら、先生方からもたくさんのアドバイスをいただき充実した実習期間となりました。

東京高校の生徒は活気にあふれ何事にも興味を示してくれるため、実習生にも明るく接してくれることが多く、授業外でも生徒との時間を作ることができました。3週間と短い間でしたが、授業づくりの大変さを知ると同時に母校での実習を許可して下さり感謝の気持ちでいっぱいです。

(国士館大学体育学部・体育)

## 卒業記念品のデザイン 選考結果

今年度の卒業記念品(マグカップ)のデザインは次のように決定し、2学期終業式後に表彰状と副賞として図書券を贈呈いたしました。



優秀賞 (図書券10,000円)

3年8組 椎葉 泉さん

会長特別賞 (図書券5,000円)

3年8組 益子 茉莉花さん

佳作 (図書券5,000円)

3年1組 加藤 航真さん、田原 京将さん

3年5組 岡田 萌花さん

3年7組 平澤 遥葉さん

3年9組 明内 美空さん

## 総会報告

平成4年卒 西村 リサ



2019年6月15日（土）第46回東京中学校・東京高等学校同窓会を開催しました。来賓の方々を始め、諸先生方と教育実習の先生方、卒業生合わせて80名の方々にご来場頂きました。

アジュール竹芝TKPガーデン浜松町は、海岸沿いに近く、夜景も楽しめ、眺望のよい会場でした。今年は、ご参加頂いた皆様全員に料理が行き渡るよう、テーブルごとに料理を配膳するスタイルにしました。

まずはじめに、上野塾・上野雅子理事長にご挨拶を頂きました。続いて、我が母校の姉妹校である東京実業高等学校・同窓会会長の白田佳彦様からご挨拶を賜り、白田会長から同窓会副会長・副校長の小畑雅一様、同窓会副会長の酒井利夫様をご紹介頂きました。今年は、東北高等学校・東京実業高等学校から多くのご協力を頂きました。いちよう祭では、羽生結弦選手と荒川静香選手の写真パネルを展示し、多くの方に観ていただくことができました。今後も引き続き、密な関係を築いていきたいと思っております。

乾杯のご発声は、昭和19年旧制中学卒業の森安正様にお願いをしました。森様の学生時代の話に触れながら乾杯をした後は、和やかな雰囲気での交流会が始まりました。恒例のビンゴ大会は今年も盛り上がりました。優勝商品は、松坂牛と特選毛蟹、東京ディズニーランドペアチケットでした。この3点の時は特に盛り上がりました。当たった方の喜ぶ顔を見ると、毎回続けていてよかったなと思っております。

今年も初参加の卒業生の方がいらっしゃいまして、受付で入りにくそうにされていた方もいました。その際は、私たち同窓会メンバーからお声がけさせて頂きました。お話からメンバーと同窓の方だと分かりまして、その事がきっかけで和気あいあいと交流会に参加して頂きました。

総会の最後には、全員で我が母校の校歌を合唱しました。以前、平成27年卒業の田口美紅さんが同窓会報の記事に取り上げてくれたことがきっかけで、校歌が2パターンあることを知りました。ここ数年間、最後の合唱では2パターンを続けて歌っています。

毎年、お世話になった先生方や諸先輩方が御逝去されることがあり、とても寂しく感じていますが、その反面、新しい卒業生も増えてきました。昨今は、スポーツ界での活躍が目立ちますが、軽音楽部など新しいフィールドの活躍も目が離せません。今年は、スポーツだけではなく、文化系の部活での活躍もありますので、卒業生の方々にはぜひ今後とも注目頂けると幸いです。

私も常任幹事を務めさせて頂き数年経ちますが、その間、諸先生や卒業生にご協力頂き、また幹事会のメンバーと力を合わせてここまで同窓会を盛り立てて参りました。今後も引き続き楽しい会として盛り立てていきますので、ぜひ、お気軽にご参加ください。

## 第47回総会及び懇親会開催のご案内

同窓会では2020年度総会及び懇親会を下記の通り開催致します。

当日懇親会には、本校教職員及び旧教職員の皆様にもご出席をいただけるようお願いをしておりますので、会員の皆様にはお誘い合わせの上、多くの皆様にご出席をいただけますよう、お待ち申し上げます。

### 記

日時 2020年6月20日(土)  
 受付開始 17:30  
 総会開始 18:00  
 懇親会は総会終了後、直ちに開催いたします。

場所 川崎日航ホテル (JR川崎駅東口)  
 URL: <http://www.kawasaki-nikko-hotel.com>

総会議案 ① 2019年度事業報告及び会計報告、会計監査報告  
 ② 2020年度事業計画及び会計予算

懇親会 (ブッフェ料理・着席)  
 総会終了後に懇親会を開催致します。

懇親会費 6,000円  
 尚、本校卒業後4年間は会費を免除いたします。

\* 2019年度第46回総会・懇親会にご出席いただいた教職員の皆様  
 元教職員 埴先生、桐生先生  
 現教職員 伊藤校長先生、鈴木副校長先生、森友先生、江原先生、関谷先生  
 松下先生、平野先生、和田先生、花田先生、竹広先生、國次先生  
 今年も多く先生方にご出席いただく予定です。

**川崎日航ホテル**  
 神奈川県川崎市川崎区日進町一番地  
 TEL: 044 (244) 5941  
 JR川崎駅 中央東口 徒歩1分  
 京急川崎駅 徒歩5分



### 同期会・クラス会サポートサービス

同窓会では、同窓会会員の皆様が開催する同期会またはクラス会をサポートします。  
 但し、部活動の会合には利用できません。

#### サービス内容

①名札印刷／②同窓会報または同窓会ホームページでの告知／③名札カードの貸出／④出席名簿の作成  
 費用 原則無料ですが、名札の用紙代は別途頂戴する場合がございます。

お申込み 同窓会事務局へメールまたは電話にてご連絡下さい。

同窓会事務局 メールアドレス: [dosokai\\_tky@tokyo-hs.ac.jp](mailto:dosokai_tky@tokyo-hs.ac.jp) 電話番号: 090 - 4823 - 9337

皆様のご利用をお待ちしております。

平成30年度会計報告書

平成30年度事業報告

収入の部 (単位:円)

項目	決算額	予算額	備考
会費	3,650,000	3,660,000	新卒者 10000円×365名
総会費	195,000	250,000	5000円×39名
寄付金	120,000	150,000	総会ご祝儀・寄付金
預金利息	176	100	
雑収入	11,896		交流会剰余金
基金より繰入	1,000,000		
小計	4,977,072	4,060,100	
前年度繰越金	1,505,173	1,505,173	
合計	6,482,245	5,565,273	

支出の部 (単位:円)

項目	決算額	予算額	備考
総会費	973,895	1,080,000	105名参加 会場費・景品代・総会通知印刷等
会報費	731,072	750,000	年1回発行・会報寄稿お礼
助成費	1,051,979	1,100,000	卒業記念品・部活動助成金
会議費	74,343	95,000	役員会・幹事協議員会・委員会
通信費	878,831	850,000	会議通知・総会通知及び会報郵送費等
	74,750	65,000	携帯電話・回線モデム使用料
渉外費	141,699	155,000	東東同窓会・東北高校同窓会・東京高校親師会
事務費	22,932	31,000	事務用品等
	35,136	65,000	システム保守費
事務委託費	735,500	800,000	事務職員給与
雑費	14,794	20,000	振込み手数料等
予備費			
小計	4,734,931	5,011,000	
次年度繰越	1,747,314	554,273	
合計	6,482,245	5,565,273	

資産残高 ￥12,783,302

平成31年3月31日現在

(単位:円)

資産明細	繰越基金明細	一般会計
金融機関名	定期・普通預貯金	普通預貯金残高
芝信用金庫	5,032,394	73,007
三井住友銀行	4,000,000	1,674,295
三井住友銀行	2,003,594	
ゆうちょ銀行		12
合計	11,035,988	1,747,314

日	曜日	内容
8	日	入学式 新入生 351名(男子170名 女子181名) 会長・副会長出席
14	土	平成29年度決算会計監査 会長・会計監査及び監査委員・財務担当副会長出席
21	土	幹事協議員会及び懇親会 平成29年度事業報告・会計及び会計監査報告 平成30年度事業計画(案)・会計予算(案) 原案通り可決 出席者21名 委任状42名 計63名 会終了懇親会
2	土	常任幹事会 総会事前準備 いちょう祭準備状況(出席物の検討等) 卒業記念品準備状況
16	土	第45回 東京中学・東京高等学校同窓会総会及び懇親会 平成29年度事業報告・会計及び会計監査報告 平成30年度事業計画(案)・会計予算(案)につき報告し承認される 会終了懇親会 出席者105名(来賓11名・教諭10名・教育実習生14名・同窓生70名) 来賓 理事長・校長・副校長・事務長・旧教職員 東京実業高等学校同窓会・東北高等学校同窓会 会場:川崎日航ホテル
20	金	卒業記念品マグカップ原画公募開始 終業式で応募依頼 公募締切11月30日(金)
25	土	常任幹事会 総会報告 「いちょう祭」準備進捗報告・役割分担 規約の改正について 協議員の公募制について 終了後交流会(クラス・グループ別)にて 出席者 20名(来賓 理事長・校長・事務長・東京実業高等学校同窓会)
3	月	石井秀之顧問 懇親会3日 通夜4日 告別式 会長・役員出席
29	土	いちょう祭参加 活躍中の部活動紹介(女子バレーボール部・チアリーディング部) この日は謙吾先生の後ろ姿がタイム
30	日	常任幹事会(9月30日の分) 交流会報告 石井顧問挨拶 規約改正について 同窓会報進捗状況 協議員公募について
1	土	常任幹事会 いちょう祭報告 卒業記念品(マグカップ)進捗報告 同窓会報の進捗状況 次年度予算案 終了後交流会:横濱(金香楼)にて 出席者 24名(来賓 校長・副校長・事務長・東京実業高等学校同窓会)
7	金	尹田 淳氏 お別れの会(帝國ホテル) 会長・内閣閣員出席
17	月	田沼道雄顧問 懇親会17日 通夜18日 告別式 会長・副会長・顧問・常任幹事出席 同窓会より供花
22	土	新協議員(3年生)説明会 会長・副会長・学内幹事(教員)・事務局・卒業予定新協議員出席
26	土	常任幹事会 2019年度事業計画・予算・役員改選等について打合せ 2019年度幹事協議員会・総会開催日打合せ 同窓会報進捗状況・田沼顧問挨拶 東京実業高等学校同窓会(新年会) 会長・副会長出席
1	金	同窓会報発行(卒業生に配布)
5	火	卒業式 卒業生 365名(男子166名 女子199名) 会長・副会長出席 謝辞会 卒業対策委員会主催 会長・副会長出席
9	土	常任幹事会 卒業式及び謝辞会報告 2019年度事業計画(案)・予算(案)・役員改選打合せ 2019年度幹事協議員会事前打合せ 2019年度総会準備進捗報告 いちょう祭準備委員会及び同窓会報編集委員会第1回打ち合わせ 会長・副会長・各委員会出席

在校生の生徒会活動部活が活発に行われ、同窓会も積極的に支援を致しました。  
陸上競技部・女子バレーボール部・チアリーディング部・女子バレーボール部・吹奏楽部

平成30年度助成金明細

(単位:円)

行事・部活動名	金額	備考
いちょう祭	30,000	いちょう祭お祝い
卒業関連	401,979	卒業記念品・卒業生表彰
チアリーディング部	270,000	アジアインター・JAPAN CUP・全国高校選手権大会出場
陸上競技部	200,000	インターハイ・国体出場
女子硬式テニス部	80,000	関東大会・インターハイ出場
女子バレーボール部	50,000	関東大会出場
吹奏楽部	20,000	定期演奏会
	1,051,979	

同窓会では毎年卒業記念品や部活動の活躍に対して助成しております。

令和元年度常任幹事・顧問氏名

役職	氏名	卒業年度	備考
会長	柴田 夏 男	昭和52年	留任
副会長	佐藤 達 也	昭和52年	留任
副会長兼会計	三 枝 香容子	昭和54年	留任
副会長	松 浦 み ぎ	昭和58年	留任
会 計	清 原 克 己	平成 5年	留任
常任幹事	浦 口 欣 久	昭和57年	留任
常任幹事	小 野 聡	昭和57年	留任
常任幹事	寺 尾 いづ美	昭和58年	留任
常任幹事	西 村 リ サ	平成 4年	留任
常任幹事	佐 野 清 香	平成 6年	留任
常任幹事	渡 邊 崇 広	平成27年	留任
常任幹事	田 口 美 紅	平成27年	留任
常任幹事	大 橋 薫	平成28年	新任
常任幹事	金 子 美 咲	平成29年	新任
会計監査	古 寺 博	昭和25年 新制中学卒業	留任
会計監査	門 脇 正	昭和62年	留任
学内幹事長	松 下 浩 志	平成11年	留任
学内幹事	和 田 洋 輔	平成12年	留任
学内幹事	花 田 麻奈美	平成19年	留任
学内幹事	竹 広 美 和	平成19年	留任
学内幹事	國 次 亮 輔	平成20年	留任
顧 問	山 本 晴之介	昭和22年 旧制中学卒業	留任
顧 問	宮 川 正 雄	昭和22年 旧制中学卒業	留任
顧 問	太 田 隆 紹	昭和27年	留任
顧 問	河 津 章 夫	昭和27年 新制中学卒業	留任
顧 問	矢 澤 秀 一	昭和30年	留任
顧 問	内 藤 類 二	昭和33年	留任
顧 問	富 田 充 保	昭和33年	留任
顧 問	進 藤 健	昭和34年	留任
事務局	事務局		
	佐 藤 裕 美子		

## 新協議員のお知らせ

2020年3月卒業の新協議員をお知らせ致します。

相楽 盛二  
徳田 小春  
筒井 太加良  
秋山 百代

### 物故者

心よりご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

旧教職員	氏名	没年
元教員(昭和18年旧中)	谷口 武知	平成30年11月
元教員	越前 和男	平成31年4月
卒業年度		
昭和14年旧中	高杉 荘二郎	
昭和14年旧中	丸茂 尚治	
昭和18年旧中	阿部 恒雄	平成13年5月
昭和18年旧中	大場 純二	平成30年11月
昭和20年旧中	鈴木 三朗	
昭和21年旧中	西ヶ谷 勝美	
昭和25年高校	三ツ橋 精一	平成30年6月
昭和26年高校	吉田 賢三	
昭和24年新中	原田 正幸	令和元年8月
昭和27年高校	戸田 孝義	
昭和28年高校	遠藤 隆夫	平成17年11月
昭和28年高校	國広 正俊	
昭和29年高校	稲岡 伸彦	平成31年2月
昭和27年新中	酒井 康允	
昭和53年高校	西山 哲生	平成30年8月
昭和60年高校	渡邊 秀利	平成30年7月
平成元年高校	荻野 勲	平成30年11月
平成20年高校	小林 祐介	令和元年7月

平成31年4月から令和2年1月までにご連絡いただいた方です。

## 同窓会事務局のご案内

同窓会事務局の連絡先をご案内いたします。住所変更その他のご連絡は、事務局までお願いいたします。尚、事務局は週に3日程度出ております。不在の場合には、お手数ですが高校事務所へご連絡をお願いいたします。

住所

〒146-0091

東京都大田区鶴の木2-39-1 東京高等学校内

電話 : 090-4823-9337 (事務局直通)

: 03-3750-2635 (学校事務所)

e-mail : dosokai\_tky@tokyo-hs.ac.jp

事務局 : 佐藤裕美子

(火)(水)(金) 出勤(ただし、出勤曜日は変更になる場合がございます。)

\*学校の休校日は、事務局も休みとなります。

## 編集後記

この度 東京中学校・東京高等学校同窓会会報 令和2年3月発行No.51をお届けさせて頂きました。

いかがでしたでしょうか。

今回も編集に当たりまして様々な分野で活躍されている同窓生の皆様より原稿をお寄せいただき、一層充実した会報を皆様にお届けする事が出来た事を心よりお礼申し上げます。

[お願い]

同窓会では、母校、同窓生の近況報告を皆様に年1回会報で発行させて頂いています。どのようなテーマでも結構です。どうぞお気軽に同窓会事務局迄お送り下さい。

最後になりますが、令和2年6月20日〔土曜日〕川崎日航ホテルにて開催される 第47回 同窓会総会で皆様にお会い出来る事を楽しみにしています。

昭和52年卒 佐藤 達也



### 東京中学校・東京高等学校同窓会 同窓会報編集委員会

責任者	佐藤 達也 (副会長)
委員	門脇 正 (常任幹事)
	西村 リサ (常任幹事)
	田口 美紅 (常任幹事)
	渡邊 崇広 (常任幹事)
	大橋 薫 (常任幹事)
	金子 実咲 (常任幹事)
	馬庭 日向子 (協議員)
	有働 陽也 (協議員)
発行日	2020年3月1日
編集	東京高等学校同窓会 同窓会報編集委員会
発行	東京中学校・東京高等学校同窓会
事務局	〒146-0091 東京都大田区鶴の木2-39-1 TEL 03-3750-2635 FAX 03-3750-2644 e-mail dosokai_tky@tokyo-hs.ac.jp
[携帯]	TEL 090-4823-9337 e-mail tokyo-hs.dousokai@docomo.ne.jp
発行人	柴田 夏男 (会長)
編集人	佐藤 達也 (副会長)
制作	株式会社 日報